

資料作成・公開に関する事業一覧

プロジェクト名	担当部門	頁
広報企画事業（情 03）	協力調整官 情報調整室	69
ホームページ及びデータベースの作成・管理（情 08）	協力調整官 情報調整室	70
黒田記念館における作品の展示公開 常設展（美 20）	美術部	73
黒田記念館における作品の展示公開 地方巡回展・所蔵作品の貸与（美 21）	美術部	74
資料閲覧室運営（情 04）	協力調整官 情報調整室	75
国際資料室の整備・公開・活用（セ 14）	国際文化財保存修復協力センター	76
伝統芸能の画像・音声・映像資料のデジタル化（芸 07）	芸能部	76
文化財保存に関する国際情報の収集及び研究 データベースの作成・公開（セ 13）	国際文化財保存修復協力センター	77
システム管理（情 02）	協力調整官 情報調整室	78
画像情報室の運営・設備（*情 06、情 07）	協力調整官 情報調整室	79

*注 画像情報室の運営・設備は、画像資料の収集・整理（情 06）及び写真機材・設備（情 07）の二つの事業の成果を総合して報告した。

広報企画事業（情 03-05-5/5）

協力調整官 情報調整室では、各研究部門の研究成果を外部へ発信すべく東文研 NEWS・概要・年報を定期的に発行している。

1) 東文研 NEWS

年 4 号を編集。研究所の研究活動のうち、速報性と公共性の高い情報を記事にして伝えている。平成 17 年度は、下記にしたがって 4 号を刊行したほか、各号は、PDF ファイルに変換し、ホームページ上で公開している。

従来、東文研 NEWS は当研究所資料閲覧室や黒田記念館において無料配布していたが、今年度から関連諸機関の協力を仰ぎ、刊行後速やかに各機関の配布コーナーなどでより多くの国民が入手できる方法を確立した。

21	2005 年 6 月 30 日発行	全 12 頁	記事 18 件	図版 13 件
22	2005 年 8 月 31 日発行	全 12 頁	記事 15 件	図版 11 件
23	2005 年 11 月 30 日発行	全 16 頁	記事 21 件	図版 21 件
24	2006 年 2 月 28 日発行	全 14 頁	記事 19 件	図版 15 件

配布先機関

大分県立歴史博物館、九州国立博物館、京都国立博物館、東京芸術大学美術館、東京国立博物館、奈良国立博物館



東文研 NEWS 第 24 号

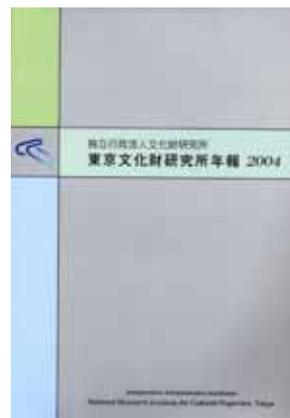
2) 概要

各年度のはじめに編集。研究所の組織の紹介や、各部ごとの当該年度のプロジェクトの紹介を、視覚的にわかりやすく、日英 2 カ国語で行っている。

3) 年報：各年度のはじめに編集。前年度の年次計画にもとづいたプロジェクト研究、科学研究費や受託研究による研究の成果、その他、さまざまな研究会・研修等、研究所における全ての活動を網羅して報告し、自己点検評価・外部評価における基礎資料として活用できるよう編集している。また各年度の年報は PDF 形式でホームページ上でも公開している。



2005 年度概要 2005 年 5 月発行 全 33 頁



2004 年度年報 2005 年 5 月発行 全 258 頁

研究組織

三浦 定俊（協力調整官）、山梨絵美子、皿井 舞、江村 知子、*綿田 稔（以上、協力調整官 情報調整室）

*平成 17（2005）年 4 月 1 日～12 月 31 日まで協力調整官 情報調整室、平成 18（2006）年 1 月 1 日より美術部

ホームページ及びデータベースの作成・管理 (情 08-05-4/4)

ホームページの作成と運用

当研究所のホームページは広報の場であるとともに、文化財研究のための基礎資料を網羅し、さらにそれを有機的に関連づけるデジタル・アーカイブ構想の有力なメディアとして機能している。なかでも黒田記念館のページでは、記念館が所蔵する黒田清輝の作品の紹介だけでなく、日記・書簡・自筆文献・白馬会関係資料等の基礎資料を提供し、黒田清輝研究のための知的データベースとして、より機能と内容の充実を図っている。また、日本語・英語の他に、平成16年度からは中国語・韓国語のページも加え、多言語による広報を目指している。

なお、各部のページは、自動的に更新されている。芸能部のページでは、実演記録を動画で視聴できるほか、保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センターが合同して刊行している『保存科学』や、協力調整官情報調整室が編集する東文研NEWS・年報・概要が、いずれもPDF版として公開されている。

平成17年度の更新履歴

日付	更新内容	部署
05.04.12	研究プロジェクト一覧更新	協力調整官 情報調整室
05.04.28	連休中の公開予定	黒田記念館
05.04.28	資料閲覧室：連休中の開室予定	協力調整官 情報調整室
05.05.10	巡回展(05.07.16-09.04 徳島県立近代美術館)	黒田記念館
05.05.13	所蔵作品の公開情報更新	黒田記念館
05.05.19	「東文研NEWS」no.20 追加	協力調整官 情報調整室
05.05.31	『東京文化財研究所概要2004』(PDF版)追加	協力調整官 情報調整室
05.05.31	「紅白梅図屏風」パネル展示(05.09.30まで)	協力調整官 情報調整室
05.05.31	「海の幸」パネル展示(05.04.13-07.10 石橋美術館)	協力調整官 情報調整室
05.06.02	研修「文化財保護行政担当者のためのIPM入門」(05.06.28 東京/09.06 京都/11.02 福岡)	保存科学部
05.06.07	第35回文化財保存修復研究協議会「伝統的日本画修復材料への科学的アプローチ～近年の動向～」(05.07.29)	修復技術部
05.06.09	第30回夏期学術講座「音の聞こえる芸能史研究」(05.07.26-28)	芸能部
05.07.05	第17回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「呉市における近代文化遺産の保存修復と活用」(05.07.19 呉市)	修復技術部
05.07.05	夏季休館のお知らせ(05.07.10-09.09)	黒田記念館
05.07.05	資料閲覧室：夏期休室のお知らせ(04.8.11-8.17)	協力調整官 情報調整室
05.07.06	伝統的修復材料に関する研究会「金属の伝統的着色について(2):銅」(05.08.30)	修復技術部
05.07.08	「東京文化財研究所年報2004」追加	協力調整官 情報調整室
05.07.13	「東文研NEWS」no.21追加	協力調整官 情報調整室
05.08.23	「海の幸」パネル展示(ブリヂストン美術館 05.09.17-10.10)	協力調整官 情報調整室
05.08.23	第39回美術部オープンレクチャー 日本における外来美術の受容(05.11.04-05)	美術部
05.08.24	第29回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「シルクロードの壁画が語る東西文化交流」(06.01.24-26, 28)	国際文化財保存修復協力センター
05.09.06	「東文研NEWS」no.22追加	協力調整官 情報調整室
05.09.09	公開再開(05.09.10-)	黒田記念館
05.09.09	研究員の募集	協力調整官 情報調整室
05.09.27	異文化受容と美術 ミニシンポジウム「東アジア近代絵画における東洋と西洋」(05.10.28)	美術部
05.10.06	資料閲覧室：臨時休室のお知らせ(05.11.04)	協力調整官 情報調整室
05.10.07	研究員の募集	修復技術部
05.10.11	「上野の山文化ゾーンフェスティバル」特別公開(05.10.31-11.06)	黒田記念館

日付	更新内容	部署
05.10.19	第36回公開学術講座「中世の寺院と芸能」(05.12.01)	芸能部
05.10.27	第8回民俗芸能研究協議会「無形民俗文化財の映像記録作成」(05.11.24)	芸能部
05.11.01	第2回文化財の防災計画に関する研究会「震災から文化財をまもる」(05.12.06)	修復技術部
05.11.01	日韓共同研究・05年度研究報告会「石造文化財の劣化と周辺環境」(05.11.18 豊後高田市真玉公民館ホール)	修復技術部
05.11.17	第18回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「近代化遺産の修復のための諸問題」(05.12.16)	修復技術部
05.11.22	資料閲覧室：年末年始休業のお知らせ(05.12.27-06.01.05)	協力調整官 情報調整室
05.11.22	冬季休館のお知らせ(05.12.25-06.01.06)	黒田記念館
05.12.07	ユネスコ日本信託基金事業・イラク博物館保存修復家研修に伴う講演会「イラク博物館の現状と展望：保存修復専門家の目から」(05.12.14)	国際文化財保存修復協力センター
05.12.16	「江戸のモノづくり」シンポジウム 沖縄のモノづくりの伝統と創造(06.01.28-29 沖縄県立芸術大学)	東京文化財研究所
05.12.22	第29回文化財の保存および修復に関する国際研究集会「シルクロードの壁画が語る東西文化交流」締切日が12月26日まで延長(06.01.24-26, 28)	国際文化財保存修復協力センター
05.12.22	「東文研NEWS」no.23 追加	協力調整官 情報調整室
06.02.02	特集展示：「昔語り」画稿・下絵(06.01.19-07.08)	黒田記念館
06.02.28	全館停電に伴うネットワーク停止のお知らせ(06.03.03-04)	協力調整官 情報調整室
06.03.07	講演会「アフガニスタン文化遺産保護への取り組み：アフガニスタンからの視点」アフガニスタン・イスラーム共和国情報文化観光省オマル・スルターン文化担当副大臣(06.03.28)	国際文化財保存修復協力センター
05.03.07	「東文研NEWS」no.24 追加	協力調整官 情報調整室
06.03.14	「平成18年度東京文化財研究所非常勤職員採用のお知らせ」	管理部、国際文化財保存修復協力センター

平成17年度のホームページアクセス件数一覧

・ 4月 56,589件 ・ 5月 58,043件 ・ 6月 23,103件 ・ 7月 69,192件
 ・ 8月 63,142件 ・ 9月 67,943件 ・ 10月 79,227件 ・ 11月 92,203件
 ・ 12月 70,469件 ・ 1月 71,790件 ・ 2月* 75,740件 ・ 3月 134,045件

*この月は正しいアクセスログが取得できなかったため、2月を除く11ヶ月の平均値をアクセス数とした。

年間アクセス総数：861,486件、平成16年度アクセス総数との対比 135,105件増加

公開データベースの作成と運用

東京文化財研究所では、所内で作成した各種のデータベースを、情報調整室で校正したのち、公開用に変換し、研究情報として統合して、所内および外部での利用に供している。なお利用の便をはかるため、今年度は古美術展覧会と近現代美術展覧会の2種のカタログデータベースを展覧会カタログデータベースに、また『謡曲界』、『能楽画報』、『幕間』の3種の所載文献データベースを伝統芸能関係三雑誌所載文献データベースに統合した。

今年度は、当所の活動にご理解いただき、下記の画廊より展覧会開催情報のデータ提供を受けた。寄せられた情報は、データベースの作成者と協議の上、校正作業を行い本研究所資料検索システムの近現代美術展覧会開催情報データベースに追加し、公開している。今後も関係機関の協力を仰ぎながら、展覧会開催情報のさらなる充実をめざす予定である。

寄贈機関一覧：みゆき画廊、横田茂ギャラリー、西村画廊、双ギャラリー、名古屋画廊、アートプラザ

内部公開データベース11種 内部公開データベースとは、所内ネットワークの端末からイントラネットを介して検索する「資料検索システム」ならびに「写真管理検索システム」で運用するファイルを指す。平成11年度以来、

日常的に運用しており、適宜、データベースの種類が増加とデータの更新をはかっている。なお、資料閲覧室における閲覧請求は、「資料検索システム」を利用している。

現在稼働中の内部公開データベース

「資料検索システム」

- ・ 定期刊行物所載古美術文献データベース
- ・ 美術関係漢書データベース
- ・ 保存修復関係図書データベース
- ・ 売立目録データベース
- ・ 『保存科学』所載文献データベース
- ・ 定期刊行物所載近現代美術文献データベース
- ・ 伝統芸能関係図書データベース
- ・ 展覧会カタログデータベース
- ・ 近現代美術展覧会開催情報データベース
- ・ 伝統芸能関係三雑誌所載文献データベース

「写真管理検索システム」

- ・ 所蔵写真データベース（2001〔平成13〕年11月より試験運用中）

画像データベースは画像情報室の運営（情 06-05-5/5）の一環として、別途に「写真管理検索システム」を構築しデータ登録作業を進めているが、作品の所蔵者との関係から現在のところ内部公開に限定している。

外部公開データベース 8 種 外部公開データベースとは、外部からインターネットを介して検索する「研究資料データベース検索システム」上で運用するファイルを指す。東京文化財研究所で作成する共用データベースは、まず所内のイントラネット上で運用し、その運用実績を確認したのち、適宜、インターネットを通して、外部へ公開するという手順を踏んでいる。このような手順を踏むことで、1) 内部公開の運用実績を通して、外部公開の前に、内部的な運用評価を経ることができ、2) 内部公開データベースのデータは外部公開データベースに何らかの支障が発生した場合のバックアップともなる。なお利用の便をはかるため、今年度は古美術展覧会と近現代美術展覧会の2種のカタログデータベースを展覧会カタログデータベースに統合し、本年度は、新たに1種のデータベースを公開した。

現在稼働中の外部公開データベース（<http://archives.tobunken.go.jp>）

- ・ 美術関係図書データベース
 - ・ 近現代美術展覧会開催情報データベース
 - ・ 保存修復関係図書データベース
 - ・ 伝統芸能関係三雑誌所載文献データベース
 - ・ 売立目録データベース
 - ・ 伝統芸能関係図書データベース
 - ・ 展覧会カタログデータベース
 - ・ 古美術展覧会カタログ所載文献データベース（2006〔平成18〕年3月より運用開始）
- 黒田清輝関係資料は、ホームページ上で文字テキスト・作品画像等を網羅的に公開している

（<http://www.tobunken.go.jp/kuroda/index.html>）

外部公開データベースの平成17年度アクセス状況

- | | | | |
|---------------|--------------|---------------|---------------|
| ・ 4月 20,655件 | ・ 5月 21,798件 | ・ 6月 27,821件 | ・ 7月 22,838件 |
| ・ 8月 19,176件 | ・ 9月 21,568件 | ・ 10月 19,754件 | ・ 11月 20,866件 |
| ・ 12月 26,513件 | ・ 1月 14,662件 | ・ 2月 24,638件 | ・ 3月 21,141件 |

年間アクセス総数：261,430件、平成16年度アクセス総数との対比 67,019件増加

研究組織

山梨絵美子、*綿田 稔、皿井 舞、江村 知子、中村 節子（以上、協力調整官 情報調整室）

*平成17（2005）年4月1日～12月31日まで協力調整官 情報調整室、平成18（2006）年1月1日より美術部

黒田記念館における作品の展示公開 常設展（ 美 20-05-5/5 ）

黒田記念室は、当研究所の創設に深く関わった帝国美術院長子爵黒田清輝の功績を記念するために設けられた陳列室であり、黒田清輝の油彩画、素描、写生帖等を収蔵公開している。

創立当時、主として黒田家から寄贈されたものは、油彩画 125 点、素描 170 点、写生帖等であるが、その後黒田照子夫人、樺山愛輔、田中良氏等からの寄贈が加わった。収蔵品の主なものは、「湖畔」「智・感・情」（以上 2 作品は、国指定重要文化財）「花野」「赤髪の少女」「もるる日影」「温室花壇」などである。

2001（平成 13）年 1 月より、2 階部分の改修工事が行われ、従来の黒田記念室に加え、会議等に使用していた陳列室も展示室に改修、2 室がギャラリーとなり、黒田清輝の作品を約 50 点展示できるようになった。また、旧美術研究所所長室も、公開のスペースに改め、美術研究所時代の写真を展示し、パーソナルコンピューターを設置し、来館者にホームページを見ていただくコーナーとして活用するようにした。2002（平成 14）年 9 月からは、それまでの木曜日公開に比べ土曜日も公開。平成 15 年度は 7 月から 9 月にかけて改修工事を行い、リフトやエレベーターの設置により施設のバリアフリー化をはかった。また同年度 10 月から記念館 1 階に黒田清輝作品の絵はがきや図録、額絵等、記念館のグッズを委託販売するコーナーを設けた。

今年度は記念館 2 階の一室を会場に、「特集展示「昔語り」画稿・下絵」と題して、黒田記念館が所蔵する画稿（木炭素描）18 点と下絵（油彩画）12 点、および資料類により、黒田清輝の代表作「昔語り」の創作プロセスを採る特集展示を行った（会期：2006〔平成 18〕年 1 月 19 日から 7 月 8 日まで）

一般公開（無料） 毎週木・土曜日 午後 1 時～4 時

特別公開 2005（平成 17）年 10 月 31 日～11 月 6 日

入場者数 18,596 人（2005〔平成 17〕年 4 月 2 日から 2006〔平成 18〕年 3 月 30 日まで）

なお、黒田記念室のパンフレット（A4 サイズ、三つ折）を作成し、来館者に無料で配布した。

また 2006（平成 18）年 2 月 9 日から 3 月 11 日まで、来館者にアンケートを実施した。1,764 人の来館者に対して、458 人から回答を得た（来館者数の 26%）。回答は、「満足した」352 人（76.9%）「おおむね満足した」99 人（21.6%）「不満が残った」及び無記入 7 人（1.5%）であり、アンケート回答の 99%が満足感を得たことになる。

研究組織

田中 淳、塩谷 純、小林未央子（以上、美術部）



「特集展示「昔語り」画稿・下絵」会場 photo©M. Torimitsu

黒田記念館における作品の展示公開 地方巡回展・所蔵作品の貸与（美 21-05-5/5）

黒田清輝の作品を多数所蔵している当研究所は、黒田清輝の功績を記念し、あわせて地方文化の振興に資するために、1977（昭和52）年からの事業として「近代日本洋画の巨匠 黒田清輝」展を年1回地方において行ってきた。平成17年度は下記のように開催した。

会 場：徳島県立近代美術館

会 期：2005（平成17）年7月16日（土）～9月4日（日）

主 催：東京文化財研究所、徳島県立近代美術館

開催日数：44日

入 場 者：12,118人

陳列点数：油彩・パステル画85点、素描62点、写生帖17冊、書簡4通、日記5冊、参考出品2点、記録写真16点（以上、黒田記念館所蔵作品） その他油彩画1点、書簡1通を特別出品した。

図 録：A4版変形、182ページ

図録については、平成15年度に、出品数の増加に伴い、油彩と素描を編年的に交えた四部構成とし、図版もフルカラーにするなど従来のものを大幅に改訂し、今年度も一部改訂の上、刊行した。

また会期中の2005（平成17）年7月24日（日）、会場出口において来館者にアンケート調査を実施し、232人から回答を得た（入館者数562人に対して、回収率41.3%）。満足度として「良かった」の回答が、84.9%をしめた。

本年度の所蔵作品の貸与は下記の通りであった。（3件3点貸与）

・「自然をめぐる千年の旅 山水から風景へ」展

会場：愛知県美術館 会期：2005（平成17）年3月11日～5月8日

作品：黒田清輝「湖畔」（油彩画）以上1点

・「櫻井忠剛と関西洋画の先駆者たち」展

会場：尼崎市総合文化センター美術ホール 会期：2005（平成17）年5月14日～6月5日

作品：川村清雄「少女像」（油彩画）以上1点

・「ユートピアを探しに 想像力の彼方へ」展

会場：新潟県立万代島美術館 会期：2005（平成17）年10月29日～12月11日

作品：黒田清輝「花野」（油彩画）以上1点

研究組織

田中 淳、塩谷 純（以上、美術部）



徳島県立近代美術館の会場風景

資料閲覧室運営（情 04-05-5/5）

資料閲覧室は、研究所が所蔵する文化財関係資料のなかで協力調整官 情報調整室が管理する各種図書資料・写真資料等を、文化財関係研究者・大学院生をはじめ一般の方々へ広く公開している。公開日は、祝日・年末年始（12/28～1/5）を除く、毎週月・水・金（10:00～16:30）である。公開日情報や所蔵情報はホームページ上でも提供している。

資料閲覧室に管理委託される購入及び寄贈図書資料のデータは、リレーショナルデータベースシステムで入力ならびに更新し、ネットワーク上の調整室サーバーで一元管理している。公開可能なデータは、ホームページ及びデータベースの作成・管理（情 08-05-4/4）の一環としてイントラネットの「資料検索システム」上で公開し運用評価を経た後に、適宜、インターネットを通して「研究資料データベース検索システム」上で外部に提供している。

同時に図書・雑誌・展覧会カタログ等の目録データは、5カ年計画（情 05-05-5/5）のもとで、適宜、原本照合を進め、冊子体目録として刊行している。既刊の蔵書目録6編8冊は閲覧室で利用者の検索用に提供している。

資料閲覧室にて作成・更新中の目録データベース（32種）

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| ・所蔵和漢書データベース（2004年度まで） | ・受入和漢書データベース（2005年度分） |
| ・所蔵洋書データベース | ・所蔵簡易図書データベース |
| ・売立目録データベース | ・所蔵美術館博物館収蔵目録データベース |
| ・和雑誌誌名データベース | ・所蔵洋雑誌誌名データベース |
| ・所蔵中国雑誌誌名データベース | ・所蔵韓国雑誌誌名データベース |
| ・所蔵和雑誌巻号データベース（2002年まで） | ・所蔵洋雑誌巻号データベース（1999年まで） |
| ・所蔵和雑誌巻号データベース（2003年以降） | ・所蔵洋雑誌巻号データベース（2000年以降） |
| ・所蔵中国雑誌巻号データベース | ・所蔵韓国雑誌巻号データベース |
| ・所蔵地方公共団体刊行報告書データベース | ・所蔵香取秀真資料関係データベース |
| ・展覧会データベース（2002年まで） | ・展覧会データベース（2003年以降） |
| ・近現代作家名データベース | ・近現代展覧会開催情報データベース（1944年以降） |
| ・写真原板データベース | ・キャビネット写真データベース |
| ・古美術文献目録データベース（明治～1965年） | ・近現代美術文献目録データベース（1959～1990年） |
| ・美術館博物館名データベース | ・所蔵古美術展図録目次データベース（1989～2001年） |
| ・所蔵近現代図録目次データベース（1948～1990年） | ・古美術展覧会開催情報データベース（1944年以降）*1 |
| ・東京文化財研究所史データベース*2 | ・美術懇話会・開所記念展覧会出品目録データベース*3 |
- 本年度は新たに3種のデータベース作成を開始した（*1～*3）

目録所在情報に関する平成17年度の実績

目録所在情報の種類	32種
目録所在情報作成件数	21,436件
目録所在情報収録件数	600,326件
イントラネットで公開中の目録数	10種（他部作成分を含む。ファイル5種を2種に統合）
目録所在情報公開件数	386,630件（他部作成分を含む）

平成17年度における閲覧資料室の利用状況（但し、所内閲覧者を除く外部閲覧者）

・4月 63人	・5月 68人	・6月 90人	・7月 70人
・8月 98人	・9月 61人	・10月 63人	・11月 86人
・12月 93人	・1月 69人	・2月 82人	・3月 88人

公開日数 141日 年間利用者数合計 931人 平成16年度の利用者数との対比 53人増

研究組織

山梨絵美子、皿井 舞、江村 知子、中村 節子（以上、協力調整官 情報調整室）

国際資料室の整備・公開・活用（セ14-05-5/5）

目 的

本プロジェクトは、国際文化財保存修復協力センターの国際資料室に配置する外国の文化財や文化財保存修復事業に関する蔵書・資料の質及び量を充実させ、国際文化財保存修復協力センターでの関連の研究や事業に利用するとともに、国内外の関連分野の専門家が閲覧・利用できるようにする。同時に、資料のデータベース化を行い、利用者の便を図る。

成 果

資料の充実：

1) 外国の文化財や文化財保存の現状および理念、2) 文化財保存関連機関、3) 文化財保護制度、4) 日本および諸外国の文化財保護関連法令、5) 各種文化論などの分野について、書籍や映像資料、デジタルデータの購入、資料交換などによる入手を行い、資料室の充実を図った。また、分類・整理された野口英雄氏のユネスコ関連資料の受入を行った。さらに、昨年度に引き続き文化財保護関連法令資料の収集が行われた。

資料目録の作成：

国際文化財保存修復協力センター独自の分類コードにもとづき、Microsoft Access により資料の名称、出版年、分類コード等基礎データの入力・データベース化の作業を行った。今年度入力が完了した 1,100 点余りのデータは、『国際資料室所蔵資料目録』として出版した。

研究組織

二神 葉子、稲葉 信子、大竹 秀実（以上、国際文化財保存修復協力センター）

伝統芸能の画像・音声・映像資料のデジタル化（芸07-05-5/5）

目 的

芸能部では、文献資料のほかに、音声・画像資料を積極的に収集してきた。上演とともに瞬時に消え去る運命にある芸能を研究するために、これらの記録は極めて貴重であるが、記録メディアの進展に伴って、より好環境のもとに保存してゆく必要がある。このため芸能部では、画像・音声・映像資料のデジタル化の推進を計画している。

成 果

本年度は、特に劣化が懸念されるオープンリール・テープに録音された音声資料のデジタル化を重点的に推進した。声明・民俗芸能等を中心に媒体変換を実施するとともに、デジタル化音声資料へのインデックス付与についても、本格的な着手に向けて準備を進めた。また、寄贈資料に関しては、古曲を中心に目録を作成し、『芸能の科学』に掲載した。

研究組織

宮田 繁幸、鎌倉 恵子、高桑いづみ、飯島 満、俵木 悟、中司由起子（以上、芸能部）

文化財保存に関する国際情報の収集及び研究 データベースの作成・公開 (セ13-05-5/5)

目 的

本プロジェクトは、国際文化財保存修復協力センターで実施するさまざまな調査・研究により得られた情報を、空間データベースとしてインターネットを通じて広く公開し、文化財保存国際協力を役立てることを目的とする。

成 果

1. 野口英雄氏所蔵書籍等資料の整理・データベース化

野口英雄氏は、現在は国際文化財保存修復協力センターの客員研究員として、アジア文化財保存セミナーをはじめとした国際文化財保存修復協力センターの国際交流・国際協力に関する事業に携わっている。野口氏はユネスコにおいてアジア・大洋州・欧州文化遺産業務研修部部長などを務め、モエンジョダロ（パキスタン）、パハルプール（バングラデシュ）など危機に瀕した文化遺産の保護に関する事業に関わってきた。野口氏が収集してきたユネスコの活動を中心とした国際関係資料は東京文化財研究所に寄贈されたが、書籍、雑誌、写真など多岐にわたる貴重なものである。今年度はこれらの資料のうち、文化遺産の危機管理に関する内容を中心とした 2,000 点あまりのデータベース化を行った。さらに、アジア 8 カ国（韓国、中国、ベトナム、タイ、フィリピン、インド、スリランカ、イラン）の文化財保護に携わる機関や関連の法令について、資料集を作成した。

2. 文化財保存修復に関する情報収集

2005（平成 17）年 7 月にダーバン（南アフリカ）で開催された世界遺産会議や、ハーグ（オランダ）で開催された国際博物館会議（ICOM）などの国際会議や学会への参加、国内外での資料収集により、文化財保存修復に関する諸外国の情報を収集した。

研究組織

二神 葉子、稲葉 信子、大竹 秀実（以上、国際文化財保存修復協力センター）、平賀あまな（日本学術振興会特別研究員）



寄贈資料を分類・保管する国際資料室

システム管理 (情 02-05-5/5)

東京文化財研究所のネットワークシステムは、平成 12 年度に導入し、順調に稼働している。所内ネットワークは、3階の LAN 機械室と各フロアにそれぞれ 1GB スイッチングハブを設置し、その間のバックボーンに 1GB/s 高速光軸ケーブル (SMF ケーブル) を配線している。各フロアのスイッチングハブと研究室・居室等の間は、100MB/s の光軸ケーブルで連絡し、研究活動及び日常業務が遅滞なく円滑に遂行できる環境にある。

外部との間には Firewall を構築し、外部からの不正アクセス・ウイルス感染等に対処している。

所内システムの運用については、システム管理者を協力調整官 情報調整室長が担当し、各部・センターから選出された委員とともに LAN 委員会を構成し、新規メールアドレスの所得やシステム全体の日常的な運用・中長期的な更新計画、保守契約等について協議している。

計画年度 5 年目は、現在稼働しているシステムを構成している機器の多数についてメーカー保守が切れる時期にあたり、大幅な機器更新が必要となった。現在のユーザー環境を維持しつつ、より効率的運用ができるよう、段階的機器更新の計画を立て、一部の機器更新を行った。

ネットワーク上のサーバーシステム一覧

- ・外部 DNS/Mail/WWW サーバー
- ・外部 NEWS サーバー (平成 16 年度より廃止)
- ・内部 DNS/Mail サーバー
- ・内部 DNS/File/Group Ware サーバー
- ・代理要求サーバー
- ・ドメインコントローラサーバー (平成 16 年度より廃止)
- ・DHCP サーバー
- ・ファイヤーウォールサーバー
- ・外部データ交換用 FTP サーバー
- ・Map 情報公開用 WWW サーバー
- ・データ公開用代理要求サーバー

ほかにイントラネット上で運用する画像サーバー、データベースサーバー、所内スケジュール管理用サーバー等がある。

研究組織

山梨絵美子 (システム管理者、協力調整官 情報調整室) 蛭川 聖二 (管理部 LAN 委員) *綿田 稔 (協力調整官 情報調整室 LAN 委員) 勝木言一郎 (美術部 LAN 委員) 俵木 悟 (芸能部 LAN 委員) 吉田 直人 (保存科学部 LAN 委員) 加藤 雅人 (修復技術部 LAN 委員) 二神 葉子 (国際文化財保存修復協力センター LAN 委員)

*平成 17 (2005) 年 4 月 1 日 ~ 12 月 31 日まで協力調整官 情報調整室、平成 18 (2006) 年 1 月 1 日より美術部

画像情報室の運営・設備（情 06-05-5/5、情 07-05-5/5）

画像情報室では、各研究部門や外部機関の要請にしたがって、文化財の研究に必要な画像を形成している。画像情報室の日常業務は、画像資料の収集・整理（情 06）撮影機材、写場の設備等については、写真機材・設備（情 07）の2つのプロジェクトを主体とし、適宜、他部のプロジェクトの協力を仰ぎながら、常時、最新の技術開発に即応できる体制を維持している。

画像形成作業はデジタル処理に完全移行したが、ギガ単位からテラ単位へ向けてのさらなる大容量化がすすんでいる。最先端の文化財研究に常に対応し得るためには、日進月歩の技術革新にあわせた継続的な機器や設備の更新を積極的に進めていく必要がある。

高精細デジタル画像（コンテンツ）は大容量ハードディスクに引き続き蓄積・整理しているが、サーバーを立てた管理の仕方について検討する時期にきている。画像情報の共有化については、昨年度に固めた高精細デジタル画像の情報公開の基本的方針に従い、資料閲覧室における画像公開のために研究支援用画像閲覧ソフト（イパレット・ライム版）を用いた画像・文献の検索システムを作成し、公開に向けて具体的準備に入った。

画像資料の作成・整理については、この5年間の中期計画の中で行ってきた、既存の写真原板台帳から画像データベース（写真管理検索システム）への運用移行のための登録画像の作成をおおむね完了した。カラー、モノクロの両フィルムの平行作業を試みつつ、フィルムの劣化状況を鑑み、優先的に進めてきた、年次の古いモノクロフィルム（4×5）の画像データベースについては、現モノクロ（4×5）登録総数約 48,000 件のすべてについて登録作業を完了した。また、劣化が認められ、デジタル化が懸案であったガラス乾板資料についても、劣化の現状について概略的調査を行った。これらの中には、戦火によって失われた文化財の画像も残されており、早期デジタル化が望まれる。

今年度の画像撮影件数、登録件数は以下のとおりである。

撮影件数	フルカラー画像	2,176 件	特殊撮影画像	4,430 件
	モノクロフィルム（4×5）登録総数	48,129 件		
	写真検索管理システム登録件数	18,357 件		

デジタル入力機材（カメラ及びレンズ）

	品目	用途	製品名	生産国	備考
1	Camera	デジタル撮影用	sinar P3	Switzerland	デジタル撮影用
2	DigitalBack		sinar m	Switzerland	デジタル撮影用
3			sinar DigitalBack 54HR	Switzerland	デジタル撮影用
4	Lens		sinaron digital 1: 2.8 f=28mm	Germany	デジタル撮影用
5			sinaron digital HR 1: 4 f=35mm	Germany	デジタル撮影用
6			sinaron digital HR 1: 4 f=100mm	Germany	デジタル撮影用
7			sinaron digital HR 1: 4 f=60mm	Germany	デジタル撮影用
8	DigitalBack	近赤外線撮影用	sinar DigitalBack 44HR	Switzerland	近赤外線撮影用
9	Camera	デジタル撮影用	Canon EOS-1Ds	Japan	黒田清輝書簡デジタルコンテンツ資料作成用
10	Lens		Canon Compact-Macro Lens EF 50mm 1: 2.5	Japan	黒田清輝書簡デジタルコンテンツ資料作成用

アナログ入力機材

1	Camera	35mm用	Nikon F100	Japan	35mm 用カメラ
2	Lens		NikonAF MICRO NIKKOR 60mm 1:2.8 D	Japan	35mm 用 近接撮影レンズ
3			Nikon Medical-NIKKOR Auto 1:5.6 f=200mm	Japan	35mm 用 近接撮影レンズ
4			Nikon AF NIKKOR 28-200mm 1: 3.5-5.6 D	Japan	35mm 用 ZOOMレンズ
5			Canon Compact-Macro Lens EF 50mm 1: 2.5	Japan	35mm 用 近接撮影レンズ
6			Camera	645 用	CONTAX 645
7	Lens		CONTAX Apo-Makro-Planar 4/120 T* Carl Zeiss	Japan	屋外撮影用
8	Lens	645 用	CONTAX Distagon 4/45mm T* Carl Zeiss	Japan	屋外撮影用
9			CONTAX Planar 2/80mm	Japan	屋外撮影用
10	Camera	4×5 インチ用	sinar P2	Switzerland	4×5 インチ用カメラ
11			Linhof Technika	Germany	4×5 インチ用カメラ(屋外用)
12	Lens		Nikon NIKKOR-AM*ED 120mm 1: 5.6	Japan	4×5 インチ用 近接撮影レンズ
13			Nikon NIKKOR-AM*ED 210mm 1: 5.6	Japan	4×5 インチ用 近接撮影レンズ
14			Schneider-KREUZNACH SUPER-ANGULON 5.6/90XL-110 ° MULTICOATING	Germany	4×5 インチ用 広角レンズ
15			Schneider-KREUZNACH SUPER-ANGULON 1:8/90 °	West Germany	4×5 インチ用 広角レンズ
16			Schneider-KREUZNACH APO-SYMMAR 5.6/210 MULTICOATING	Germany	4×5 インチ用 標準レンズ
17			Schneider-KREUZNACH APO-SYMMAR 1: 5.6/150 1:12/265	Germany	4×5 インチ用 標準レンズ
18			Schneider-KREUZNACH APO-SYMMAR 5.6/150 MULTICOATING	Germany	4×5 インチ用 標準レンズ
19	Camera	8×10 インチ用	TOYO -VIEW	Japan	8X10 インチ用カメラ(屋外用)
20	Lens		Schneider-KREUZNACH APO-SYMMAR 5.6/300 MULTICOATING	Germany	8×10 インチ用標準レンズ

照明機材 (Broncolor 社製)

	品目	用途	製品名	生産国	備考	
1	Generator	スタジオ使用	grafit A2	Switzerland		
2				Switzerland		
3				Switzerland		
4			海外用(屋外)	grafit A4	Switzerland	
5					Switzerland	
6					Switzerland	
7	Generator	海外用(屋外)	grafit A4	Switzerland		
8			TopasA4	Switzerland		
9			mobile	Switzerland		
10	Light Head	海外用(屋外)	primo	Switzerland		
11				Switzerland		
12				Switzerland		
13				Switzerland		

14		スタジオ使用		Switzerland	
15				Switzerland	
16				Switzerland	
17			PULSO F4	Switzerland	
18				Switzerland	
19			PULSO G	Switzerland	
20		屋外使用	picolite	Switzerland	
21				Switzerland	
22				Switzerland	
23				Switzerland	

特殊光源装置（ROFIN 社製）

	品目	用途	製品名	生産国	備考
1	ポリライト	蛍光撮影用	ROFIN POLILIGHT PL500	Australia	
2				Australia	

スタンド

	品目	用途	製品名	生産国	備考
1	スタンド	スタジオ使用	Manfrotto Avenger B250x (× 3)	Italy	
2			Manfrotto Mega Boom (× 2)	Italy	

研究組織

山梨絵美子、*綿田 稔、皿井 舞、江村 知子、城野 誠治（以上、協力調整官 情報調整室）

*平成 17（2005）年 4 月 1 日～12 月 31 日まで協力調整官 情報調整室、平成 18（2006）年 1 月 1 日より美術部